

第2砲兵ニュース：中国 DF-16 弾道ミサイルは日本を標的に

漢和防務評論 20150105 (抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

「イスラム国」に拉致された日本人の解放に向けて政府が全力で取り組んでいます。が、メディアの対応を見るとただ騒いでいるだけで、日本人としての当事者意識の高まりを努めて抑制しているように見えます。理由は、自衛権の論議が活発化するのを恐れるからでしょうか。ヨルダン政府に任せて当事者責任を回避しよう。今日は、中国の固体燃料中距離弾道ミサイル DF-16 の攻撃目標についての漢和の記事を紹介します。DF-16 の主たる攻撃目標は日本沖縄の基地で、停泊中の米空母、自衛隊のヘリ空母も攻撃可能ということです。

KDR 香港特電：2014 年 9 月、中国中央テレビは、クルレ射場における DF-16 弾道ミサイル発射の映像を公開した。この場所は、新疆ウイグル自治区のクルレに設置された射場で、模擬標的に向けて発射された可能性が高い。発射車の形状を見ると、萬山集団が開発した 10×10 輪車である。

WS2500 型は：長さ 15.45 M、重量 21.3 トン、幅 3.05 M、最大速度毎時 75 KM である。

WS2600 型は：長さ 16.35 M、幅 3.50 M、重量 22.5 トン、最大積載量 42.5 トン、最大速度 70 KM である。車体全体から DF-16 に採用したのは WS2500 型であると KDR は判断する。ミサイルの中央部、及び弾頭部分には DF-16 の文字が書かれており、このミサイルの正式名称が初めて確認された。長さから判断すると、DF-15 よりも大きいようだ。

WS2500 の 5 個のタイヤの中心線の距離は 11.20 M であり、DF-16 の長さはおおむね 11 M 級であると推測できる。DF-15 の長さは公開されており、1988 年の展示では長さ 9.1 M、直径 1 M であった。

2000 年から、066 基地において直径 1.2 M の新型固体ロケットエンジンが開発中であった。このことから推測すると、DF-16 の直径は 1.2 M 以下ではない。もし DF-16 の燃料タンク容量が DF-15 に比べ 19-22%増加しているならば、単純計算で DF-16 の射程は 800 KM を超え、実際上は 1000 KM に達する可能性が極めて高い。エンジンは、新型であり、弾体は先進的複合材料を使用し軽量化が図られている。如何なる弾頭を採用し、攻撃目標は何か？2013 年 5 月のクルレ射場での部署を見ると、およそ DF-16 の目標が推測できる。同時期同射場には 12 機の F-15 の全寸大模型が配置されていた。2012 年の同一目標に対する攻撃効果を見ると、大量の黒褐色の弾痕が発見された。このことから中国第 2 砲兵部隊の日本の沖縄に対する弾道ミサイル攻撃方式は、集束燃焼型子母弾による飛行場攻撃であることが分かる。この攻撃は主に DF-16 を使用する可能性が高い。

DF-16 の射程が 1000 KM であれば、沖縄島全体が射程範囲に含まれる。このほか韓国全土、日本の九州全体が含まれる。青藏高原で発射する目的は、対インド作戦をも考慮したものと考えざるを得ない。これはインド北部の全ての野戦、軍用飛行場が含まれる。DF-16 が出現する前、中国はこの程度の射程の弾道ミサイルを保有していなかった。600 KM を超える目標への攻撃には DF-21 を使用しなければならなかった。DF-21 は射程が 1800 KM である。

弾頭の外形は、やや扁平である。光学或いは最終ステージでテレビ画像誘導システムを採用した可能性がある。米国のパーシング II 地対地弾道ミサイルに似ている。クルレ射場には 94 M×59 M の標的内に 17 個の大小様々な弾痕があり、弾痕間の距離はそれぞれ 21 M、14 M、11 M で、最小は 5 Mであった。このことから DF-16 のおおよその命中精度は 50 M 以下であると推測できる。このような命中精度であると、停泊状態の米軍空母、日本のへり空母にとっては脅威となる可能性がある。DF-16 の集束弾頭による艦隊の火災を避けるため、日米の艦隊は台湾海峡から遠ざかる可能性がある。

以上